

最優秀賞 「食は心」

天理高等学校第二部 1年 田畑 有梨沙

「食は心」あの日までの私はこの言葉をきれいごとにはか思えませんでした。でも、あの出来事があったからこそ、食の大切さや家族の温もりを今でも忘れずに過ごせています。

私が初めて料理をしたのは小学校四年生の時でした。その日は父と母が仕事でいそがしく、私が夕飯を作ることになったのです。その日のメニューはカレーライス。母が細かく作り方を教えてくれたので、私はおいしいカレーライスを作れる自信に満ちあふれていました。

火と包丁を使うので祖母につきそってもらい、作り始めました。ところが、想像していたよりも難しく、何もかも投げ出してしまいたくなりました。しかし負けず嫌いの私は、祖母の手伝だってくれるという優しい言葉にも耳を貸さずに、もくもくと作業を続けました。案の上出来栄えは最悪。じゃがいももんじんも固く、カレーの底はこげてしまっていました。泣きそうになるのをこらえ、父と母の帰りを待ちました。

父と母が帰ってきて、夕飯の時になりました。私はドキドキしながら「どう？」と父と母に聞きました。すると父と母は「おいしいよ、ありがとね。」とってくれました。私はとうとう涙が溢れてきて、「なんで、なんでなの？絶対おいしくないのに。」と叫びながら泣きわめきました。すると父が「食っていうのは味や見た目じゃなくて、作ってくれた人の心が大切なんだよ。だからありが一生懸命作ってくれたカレーは最高においしかったよ。」とってくれました。私はその時「食は心」という言葉の意味が初めてわかったような気がしました。それと家族の大切さもです。食はそんな大切なことにも気づかせてくれる、大切なものなのです。だからこれからも食を大切にしていきたいと思います。

お父さん、お母さん。今度はもっともっとおいしいカレー作るから楽しみにしててね。